

ボストンでの充実した研究生活

Department of Molecular Biology
Massachusetts General Hospital
Harvard Medical School

八木 正樹

(京都大学 iPS 細胞研究所未来生命科学開拓部門)

ボストンは、ハーバード大学・マサチューセッツ工科大学など世界的にも有名な大学が多数集まっており学術都市としての一面を有している一方で、芸術や文化などにも深い歴史があり、様々な角度からアメリカの魅力を感じることができます。また、ボストンはアメリカの中でも治安の良い都市として知られており、街並みもとても綺麗なのでとても生活のしやすい街であると感じています。

私は、2018年8月よりハーバード大学付属病院の一つ、MGH（マサチューセッツ総合病院）にてポスドクとして研究留学をさせていただいております。Konrad Hochedlinger Lab に所属し、発生や細胞運命転換における転写・エピゲノム制御に関する基礎研究に従事しております。大学院在籍期間、京都大学 iPS 細胞研究所で ES 細胞や iPS 細胞のエピゲノム制御に関する研究を行う中で、幹細胞の能力に魅せられ、幹細胞研究者になることを目指しました。Dr. Hochedlinger は大学院生時代から尊敬する研究者であり、留学させていただくことが決まった際、心から喜びを感じたことを強く覚えています。現在、皮膚細胞から筋幹細胞へのリプログラミングメカニズムに関する研究を行っていますが、細胞を観察するのが特に好きで、皮膚細胞が筋幹細胞へと形や性質を変えていく姿には本当に大きな魅力を感じます。こういった好奇心をいつまでも大切に、日々研究課題に取り組んでいきたいと思っています。

現在 Hochedlinger Lab は、教授、ポスドク5名、大学院生1名、技術員1名の計8名と比較的少人数で構成されています。研究室メンバーは皆とても仲が良く、メンバー同士のディスカッションやコミュニケーションも盛んに取っております。また Dr. Hochedlinger もとても親切かつ指導も熱心な PI であり、頻繁に Hochedlinger office を訪ね、研究のディスカッションを行うことができます。こういった点は少人数の研究室の利点ではないかと感じています。また、週に一度、研究進捗報告および論文紹介もあり、定期的に意見交換を行いながら緻密に実験計画を立てることができます。研究所内外の研究室との共同研究も積極的に行っており、日々効率的に研究を遂行することができるため、

大変優れた研究環境であると実感しています。一方で、ボストンはアメリカの中でも物価の高い都市であるため、生活面の不安は付き物ではありますが、上原記念生命科学財団より海外留学のご支援をいただいたことにより日々充実した研究生生活を過ごすことができています。

末筆ではございますが、このような貴重な留学機会を得ることができたのは京都大学 iPS 細胞研究所・山中伸弥教授、山田泰広教授（現・東京大学）をはじめ研究室の皆様のご指導があったことであり、この場を借りて心より御礼申し上げます。また、留学にあたりご支援いただきました上原記念生命科学財団の皆様に厚く御礼申し上げます。

(2019. 5. 10受領)